

Institute for Economic Studies, Keio University

Keio-IES Discussion Paper Series

学校 ICT・教師・オンライン教育：コロナ禍の日本の学校閉鎖期のエビデンス

赤林英夫、田口晋平、ミルカ・ズベデリーコバー

2024 年 4 月 11 日

DP2024-010

<https://ies.keio.ac.jp/publications/23721/>

Keio University



Institute for Economic Studies, Keio University
2-15-45 Mita, Minato-ku, Tokyo 108-8345, Japan
ies-office@adst.keio.ac.jp
11 April, 2024

※ DP2023-008 の改訂版

学校 ICT・教師・オンライン教育：コロナ禍の日本の学校閉鎖期のエビデンス

赤林英夫、田口晋平、ミルカ・ズベデリーコバー

IES Keio DP2024-010

2024年4月11日

JEL Classification: I20, J22, H75

キーワード: COVID19、リモート教育、教師の ICT スキル、学校資源

【要旨】

COVID-19パンデミックの間、世界中の学校がオンライン教育への切り替えを余儀なくされた。本論文では、日本全国をカバーする行政データを使用し、学校のICT設備と教師のITスキルが、2020年前半におけるオンライン授業の提供、生徒の家族とのコミュニケーション、および教師の勤務時間に与えた影響を分析した。供給側である学校の影響を識別するために、ICT資源配分が決定される自治体単位の小中学校間のICT資源の差を利用した。その結果、基本的なICT設備の有無はオンライン授業実施に不可欠だが、教師のITスキルはそうではないこと、さらに、教師のITスキルは教師の労働時間と関係することがわかった。

赤林英夫

慶應義塾大学経済学部

東京都港区三田2-15-45

hakab@econ.keio.ac.jp

田口晋平

慶應義塾大学大学院経済学研究科（大学院生）

東京都港区三田2-15-45

shimpei.taguchi@keio.jp

ミルカ・ズベデリーコバー

大阪大学社会経済研究所

大阪府茨木市美穂ヶ丘6-1

zvedelikova@iser.osaka-u.ac.jp